

情報ワーキンググループの今後の検討事項について

I 小・中・高等学校を通じた情報活用能力の育成について

- ① 小・中・高等学校の各教科等を通じて育まれる情報活用能力について、「三つの柱」に沿ってどのように整理すべきか
- ② 特に、プログラミングや情報セキュリティをはじめとする情報モラルなどに関する学習活動について、学校外の多様な教育活動とも連携しつつ、発達段階に応じてどのように充実を図るべきか
- ③ 関連して、各教科等におけるICTを活用した学習・指導について、「アクティブ・ラーニング」の視点に立った学びを推進する視点も踏まえ、どのように充実を図るべきか

II 高等学校情報科（各学科に共通する教科）の改善について

- ① 情報の科学的な理解に裏打ちされた情報活用能力を身に付けさせるため、情報科（各学科に共通する教科）の科目の構成、目標、内容及び学習・指導方法等について、どのように改善を図るべきか

III 学習指導要領の理念を実現するために必要な方策について

- ① 情報教育やICTを活用した学習・指導を充実するため、「カリキュラム・マネジメント」をどのように確立すべきか
- ② 情報教育やICTを活用した学習・指導を充実するため、教員の指導力の向上（養成・採用を含む。）やICT環境の整備等をどのように進めるべきか

※ 第2回以降においては、おおむねⅠ、Ⅱの順に検討し、Ⅲについては必要に応じて適時検討することとする

高等学校情報科（各学科に共通する教科）の改善について

- 検討事項 1 小・中・高等学校を通じて育む「情報に関わる資質・能力」を踏まえ、高等学校情報科（各教科に共通する教科）においては、どのような力（見方・考え方）を育むべきか。
- 検討事項 2 「論点整理」及び検討事項 1 の高等学校情報科において育む力（見方・考え方）を踏まえ、情報科の科目の構成及び目標・内容についてどのように改善を図るべきか。
- 検討事項 3 高等学校情報科の改善の趣旨を実現するため、カリキュラム・マネジメントの確立、教員の指導力の向上（養成・採用を含む。）や ICT 環境の整備等、どのような課題があり、どのように改善を進めるべきか。

高等学校学習指導要領における情報科目改訂の方向性（たたき台案）

現行

社会と情報

- 1 情報の活用と表現
- 2 情報通信ネットワークとコミュニケーション
- 3 情報社会の課題と情報モラル
- 4 望ましい情報社会の構築

いずれか1科目(2単位)を
選択必修

情報の科学

- 1 コンピュータと情報通信ネットワーク
- 2 問題解決とコンピュータの活用
- 3 情報の管理と問題解決
- 4 情報技術の進展と情報モラル

改訂の必要性

高度な情報技術の進展に伴い、文理の別や卒業後の進路を問わず、**情報の科学的な理解に裏打ちされた情報活用能力**を身に付けることが重要

資質・能力

【情報科】

- 情報に関わる資質・能力を育てる中核として、情報や情報技術を問題の発見と解決に活用するための科学的な考え方を育てる
- 生徒の特性、進路等にに応じてそれを更に深める

高度情報社会に対応する情報教育

【各教科等の学習を通じて高等学校卒業までに育む情報に関する資質・能力】

- 問題の発見解決の過程や方法の理解
- 情報や情報手段の特性の理解と情報手段の操作技能
- 教科等の学習を通じて身に付ける知識等

- 情報を活用して問題を発見・解決する能力
- 問題発見・解決の過程において情報手段を活用する能力
- 情報を吟味し見極めようとする情意・態度等
- 自らの情報活用を評価・改善しようとする情意・態度等
- 情報モラル等について考え行動しようとする情意・態度等
- 情報社会に参画し、その発展に寄与しようとする情意・態度等

新科目案

情報Ⅰ（仮称） 共通必修履修科目

(1) コンピュータと情報通信ネットワーク

コンピュータにおいて情報が処理される仕組みや、情報通信ネットワークの仕組み、情報セキュリティについて理解し、情報システムの働きと提供するサービスの利用の在り方を考える

(2) 問題解決の考え方と方法

問題解決の基本的な考え方やモデル化とシミュレーションの考え方や方法を理解し、統計的手法とともに実際の問題の発見や解決に活用し、その過程と結果を評価し改善する

(3) 問題解決とコンピュータの活用

問題の発見や解決に情報技術を活用する方法を習得し、情報の共有と管理、プログラムの作成などを通して情報技術の有用性について考える

(4) 情報社会の発展と情報モラル

情報化が社会に果たす役割と及ぼす影響、情報モラルや情報社会の安全について理解し、個人が果たす役割と責任を考え、情報社会に主体的に参画しその発展に寄与する

情報Ⅱ（仮称） 選択科目

(1) 情報システムの活用

複数のコンピュータ等から構成される情報システムを理解し活用する

(2) データサイエンス

様々なデータの特性や扱いを理解し、これら进行处理する

(3) 情報デザイン

情報を的確に対象者に伝える手法を理解し活用する

(4) 課題研究

情報Ⅰ及び(1)～(3)の学習を総合し深化させ、新たな価値を創造する

新科目の実現に向けての課題

他の各教科・科目等との連携(カリキュラム・マネジメント)

例1) 情報 I (仮称)「(2) 問題解決の考え方と方法」と数学科における統計に関する内容の学習との連携

情報 I (仮称)「(2) 問題解決の考え方と方法」において取り扱うことが想定される統計手法

- ・ヒストグラムなどによる資料の傾向の把握
- ・簡単な標本調査 (以上, 現行中学校数学科の内容)
- ・四分位範囲, 標準偏差, 相関係数などによるデータの傾向の把握(現行高等学校数学 I の内容)

なお, 情報 II (仮称)「(2) データサイエンス」においては, 統計的な推測(現行高等学校数学 B の内容)を活用することも想定される

例2) 情報 I (仮称)「(2) 問題解決の考え方と方法」と総合的な学習の時間における横断的・総合的な学習や探究的な学習との連携

効果的な指導や系統的な指導ができるよう, 積極的に情報と総合的な学習の時間との相互の関連を図るべきではないか

教科横断的な視点も重視した「カリキュラム・マネジメント」を通じて, 教育内容を組織的に配列し, 外部の資源も含めて必要な資源を投入していくことが必要

※中学校までの情報教育との連携(カリキュラム・マネジメント)も重要

情報科担当教員の指導力向上

- ・情報科担当教員の約3割が免許外教科担任
- ・情報科と他教科とを兼任している教員は約5割
(平成27年5月1日時点、文部科学省調べ)

また, 情報科免許状保有者についても, 「情報の科学」の指導経験が乏しい教員が少なくないと推定される

情報科免許状保有者の採用と計画的配置, 免許外教科担任及び臨時免許状により担当している教員の免許取得の促進, 情報科担当教員の研修の充実等を計画的に進めることが必要

ICT環境の整備

- ・第2期教育振興基本計画(平成29年度まで)における教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数の目標値3.6人に対し, 平成27年3月現在で6.4人に1台(高等学校は5.0人に1台)

- ・学校のICT環境整備状況に地域間格差

教育用コンピュータ等の計画的な整備を進めることが必要

次期学習指導要領の実施に向けて, 学校・教育委員会等において計画的に準備を進めることが必要

平成28年度中 中央教育審議会答申

その後, 高等学校学習指導要領改訂

平成34年度入学者から実施

(過去の例から想定されるスケジュール)

体育・保健体育、健康、安全 WG における検討事項（案）

1. 体育・保健体育を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・ 体育・保健体育を学ぶ本質的な意義や他教科との関連性について
 - ・ 三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）
 - ・ 幼稚園・小学校・中学校・高等学校を通じた体育・保健体育において育成すべき資質・能力の系統性について
 - ・ 体育・保健体育において育成すべき資質・能力と指導内容との関係について
 - ・ オリンピック・パラリンピック大会を契機として育成すべき資質・能力、

2. アクティブ・ラーニングの三つの視点（※）を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき体育・保健体育の指導等の改善充実の在り方について

3. 資質・能力の育成のために重視すべき体育・保健体育の評価の在り方について

4. 必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について

5. 健康・安全における資質・能力等について

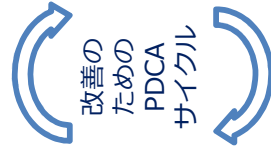
※アクティブ・ラーニングの三つの視点（教育課程企画特別部会「論点整理」18ページ参照）

- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか
- ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか
- iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

健やかな体の育成に関する教育のイメージ（たたき台）

体育科・保健体育科

発達段階



卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続することができるようにする

多くの領域の学習を経験する

各種の運動の基礎を培う

【高等学校】

生涯にわたる豊かなスポーツライフを継続する資質・能力を養うとともに、健康な社会づくりに参画する態度を育てる。

- 「する、みる、支える」などの多様なスポーツとの関わり方に関する指導を充実する。
- 体育で学習したことを実生活や実社会で生かし、運動の習慣化につなげる指導を充実する。
- 中学校からの接続を踏まえ、体力や技能の違いを超えてスポーツを楽しむよう、男女共習やアダプテッド・スポーツの体験の機会を充実する。
- 主体的に運動に取り組めるよう、協同的な学びや課題解決的な学びをさらに充実する。
- 健康課題や情報を批判的に捉え、課題解決を目指して論理的に考え、意志決定・行動選択する力を育てる。
- 自他の健康の保持増進や回復のための健康な社会づくりを目指して、健康的な環境づくりに参画する活動の充実。

【中学校】

生涯にわたって運動に親しむ資質・能力を養うとともに、健康の保持増進のための実践力を育成する。

- 小学校からの接続を踏まえ、競争や達成、課題解決、創造、協力などのスポーツを通じた多様な楽しさを味わえるよう、全ての領域の体験のさせ方を充実する。
- 体力や技能の違いを超えてスポーツを楽しむよう、男女共習やアダプテッド・スポーツの体験の機会を充実する
- 3年次では、自主的に運動に取り組めるよう、協同的な学びや課題解決的な学びをより充実する。
- 健康課題を把握し、適切な情報を選択、活用し、課題解決のために自己判断や意志決定する力を育てる。
- 自他の健康の保持増進や回復のためにコミュニケーションを図ったり、主張したりする活動の充実。

【小学校】

- 基礎的な身体能力や知識を身に付け、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。
- 運動の楽しさや喜びを味わい、児童の運動への関心や意欲を高めるとともに、仲間と仲よく運動したり、運動の課題を主体的に解決したりする力を養うなど、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる。
- 身近な健康課題に関心を持ち、健康を保持増進するための情報を活用し、課題解決するとともに、自己の健康に関する取組を肯定的に捉える態度を育てる。

【幼児教育】

（教育課程部会幼児教育部会において、本部会での議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりにまで育ってほしい姿の明確化について審議）

- 体を動かす様々な活動に目標をもって挑戦したり、困難なことにつまずいても気持ちを切り替えて乗り越えようとしていたり、主体的に取り組む。
- いろいろな遊びの場面に応じて、体の諸部位を十分に動かす。
- 健康な生活リズムを通して、自分の健康に対する関心や安全についての構えを身に付け、自分の体を大切にすることを大切にする気持ちを持つ。

【たたき台】資質・能力の三つの柱に沿った、小・中・高を通して育成すべき資質・能力の整理イメージ（体育科・保健体育科）Ver.4

平成28年2月10日
 体育・保健体育、健康、安全WG
 資料4

小学校 体育	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 <small>教科等の本質に根ざした見方や考え方や等</small> (知っていること、できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 <small>情意、態度等に関わるもの</small> (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)
運動領域	各種の運動が有する特性や魅力に応じた 技能や知識 ・各種の運動を行うための技能 ・各種の運動の行い方についての基本的 な知識	自己の能力に適した課題をもち、活動を選 んだり工夫したりする思考力・判断力・表 現力等 ・自己の能力に適した課題に気付く力 ・自己の課題を解決するための活動を選ん だり、運動の行い方を工夫したりする力 ・思考し判断したことを、言葉や動作等で 他者に伝える力	運動の楽しさや喜びを味わい、明るく 楽しい生活を営むための態度 ・進んで学習活動に取り組む ・約束を守り、公正に行動する ・友達と協力して活動する ・自分の役割を果たそうとする ・安全に気を配る
保健領域	身近な生活における健康・安全について の基礎的な知識や技能 ・健康な生活、発育・発達、心の健康、 けがの防止、病気の予防に関する基礎 的な知識 ・不安や悩みの対処やけがの手当に関す る基礎的な技能	身近な健康課題に気付き、健康を保持増進 するために情報を活用し、課題解決する力 ・身近な健康課題に気付く力 ・健康課題に関する情報を集める力 ・健康課題の解決方法を予想し考える力 ・学んだことを自己の生活に生かす力 ・学んだことや健康に関する自分の考えを 伝える力	健康の大切さを認識し、健康で楽しく 明るい生活を営む態度 ・自己の健康に関心をもつ ・自己の健康の保持増進のために協力 して活動する ・自他の心身の発育・発達などを肯定 的に捉える

【たたき台】資質・能力の三つの柱に沿った、小・中・高を通して育成すべき資質・能力の整理イメージ（体育科・保健体育科）Ver.4

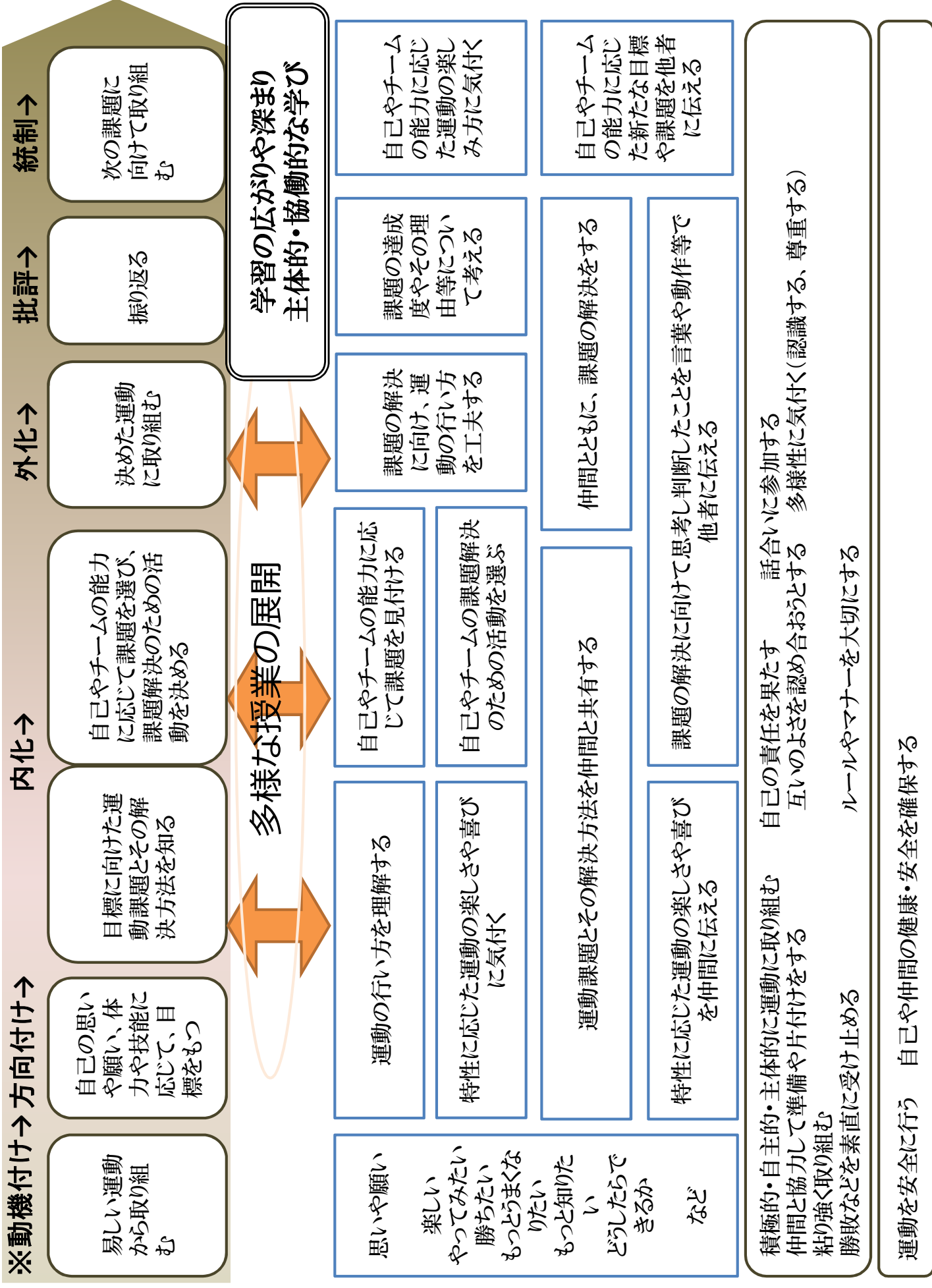
中学校 保健体育	個別の知識や技能 <small>(何を知っているか、何ができるか)</small>	思考力・判断力・表現力等 <small>教科等の本質に根ざした見方や考え方等 (知っていること、できることをどう使うか)</small>	学びに向かう力、人間性等 <small>情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)</small>
体育分野	運動の特性に応じた行い方や運動の一般原則などの知識 ・技能の名称や行い方の知識 ・運動の特性や成り立ちの知識 ・体力の要素や高め方の知識 ・運動観察の方法の知識 ・伝統的な考え方の知識 など スポーツに関する科学的知識や文 化的意義等の概要 小学校段階の学習を踏まえ、各種の運動が有する特性や魅力に応じた技能 ・知識を踏まえて、基本的な運動の技能として発揮したり、身体表現したりする	自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できる思考力・判断力・表現力 ・自己の課題に応じた運動の行い方の改善すべきポイントを見付ける力 ・運動実践の場面で、自己の課題に応じて、適切な練習方法を選ぶ力 ・運動実践の場面で、健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な活動を選ぶ力 ・状況に応じた自己や仲間の役割を見付ける力 ・作戦などの話し合いの場面で、合意を形成するための適切ななかかわり方を見付ける力 ・運動を継続して楽しむための自己に適したかわり方を見付ける力 ・思考・判断したことを、根拠を示しながら相手に伝える力 など	生涯にわたって運動やスポーツに親しむとともに、明るく豊かな生活を営む態度 ・自主的に学習活動に取り組む ・運動における競争や協同の場面を通して、多様性を認識し、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画するなどの意欲を持つ ・相手を尊重し伝統的な行動の仕方を大切にしようとする ・運動実践の場面で、健康・安全を確保する など
保健分野	個人生活における健康・安全についての科学的な知識や技能 ・現代的な健康課題を踏まえた心身の機能の発達と心の健康、健康と環境、傷害の防止、健康な生活と疾病の予防に関する知識 ・ストレス対処、応急手当に関する基礎的な技能	健康課題を把握し、適切な情報を選択、活用し、課題解決のために適切な意思決定をする力 ・自己の健康課題を発見する力 ・健康情報を収集し、批判的に吟味する力 ・健康情報や知識を活用して多様な解決方法を考える力 ・多様な解決方法の中から、適切な方法を選択・決定し、自己の生活に生かす力 ・自己の健康の考えや解決策を対象に応じて表現する力	健康の保持増進のための実践力を育成し、明るく豊かな生活を営む態度 ・自己の健康に関心をもつ ・自己の健康に関する取組のよさを認める ・自己の健康の保持増進や回復のために協力して活動する ・自己の健康の保持増進に主体的に取り組む

【たたき台】資質・能力の三つの柱に沿った、小・中・高を通して育成すべき資質・能力の整理イメージ（体育科・保健体育科）Ver.4

高等学校 保健体育	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 <small>教科等の本質に根ざした見方や考え方や (知っていること、できることをどう使うか)</small>	学びに向かう力、人間性等 <small>情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)</small>
科目体育	運動の特性に応じた行い方や運動の一般原則などの知識 ・技能の名称や行い方の知識 ・体力の高め方の知識 ・課題解決の方法の知識 ・伝統的な考え方の知識 など ・競技会、発表会の仕方や審判の方 法等の知識 スポーツに関する科学的知識や文化 的意義等 各種の運動が有する特性や魅力に応 じた技能 ・知識を踏まえて、運動の技能とし て発揮したり、身体表現したりす る	自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための 取組み方を工夫できる思考力・判断力・表現力 ・自己や仲間の挑戦する運動課題を設定する力 ・技術的な課題や有効な練習方法について指摘す る力 ・運動実践の場面で、課題解決の過程を踏まえて、 自己や仲間の課題を見直す力 ・運動実践の場面で、自己や仲間の危険を予測し 回避するための活動の仕方を選ぶ力 ・状況に応じた自己や仲間の役割を設定する力 ・作戦などの話し合いの場面で、台意を形成する ための調整の仕方を見付ける力 ・運動やスポーツを生涯にわたって楽しむための 自己に適したかかわり方を見付ける力 ・思考・判断したことを、根拠を示し示したり、 他者に配慮したりして相手に伝える力 など	生涯にわたって豊かなスポーツライフ を継続するとともに、明るく豊かで活 力ある生活を営む態度 ・運動の楽しさや喜びを深く味わい、 主体的に取り組む態度 ・運動の合理的、計画的な実践を通し て、多様性を尊重し、公正に取り組 む、仲間と主体的にかかわり協力す る、役割に責任をもって取り組む、 意思決定などに参画するなどの意欲 を持つ ・相手を尊重し、伝統的な行動の仕方 を大切にしようとする ・運動実践の場面で、健康・安全を確 保する など
科目保健	個人及び社会生活における健康・安 全についての総合的な知識や技能 ・現代社会に生じた健康課題の解決 に役立つ知識、健康な生活と疾病 の予防に関する知識 ・ライフステージにおける健康を踏 まえた生涯を通じる健康の知識 ・社会生活と健康に関する知識 ・社会資源の活用、応急手当に関す る技能	健康課題の解決を目指して、情報を批判的に捉え たり、論理的に考えたりして、適切に意思決定・ 行動選択する力 ・社会生活に関わる健康課題を発見する力 ・社会生活に関わる健康情報を収集、分析する力 ・社会背景や置かれていた状況に応じて解決方法 を考える力 ・解決方法を活用し、健康な社会づくりを目指し て適切に意思決定・行動選択する力 ・健康な社会づくりに必要な知識や技能、健康の 考えや解決策を社会へ伝える力	健康の保持増進のための実践力を育成 し、明るく豊かで活力ある生活を営む 態度 ・社会生活に関わる健康づくりに関心 をもつ ・社会生活において健康・安全を優先 する ・健康の保持増進や回復のための社会 づくりに参画する

※論点整理補足資料(p192)に示された学習プロセスと対応

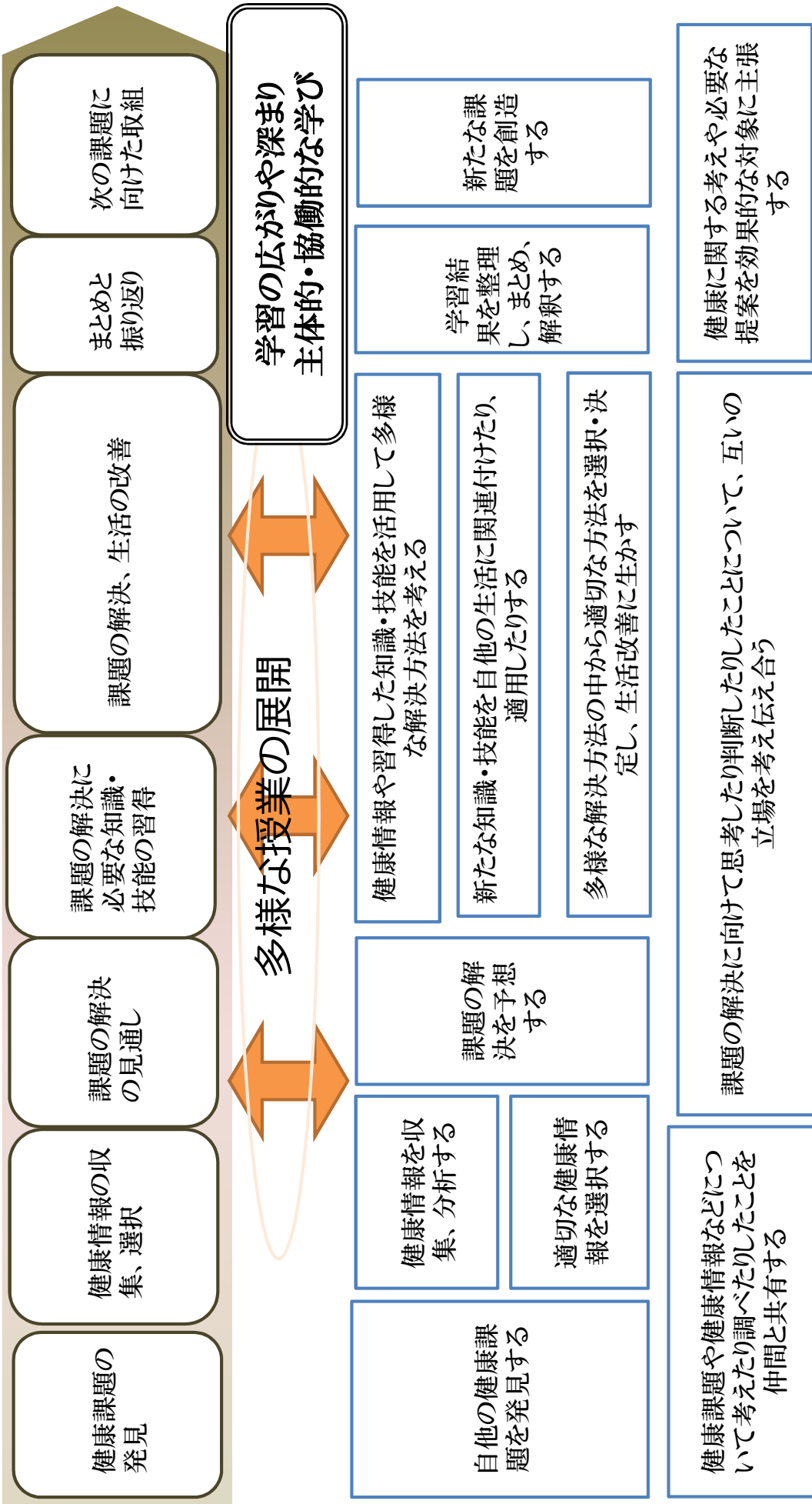
学びのプロセス例



体育科・保健体育科における学習過程のイメージ（保健）

※なお、課題解決の課程は、必ずしも一方向の流れではない。また、授業では学びのプロセスの一部を扱うこともある。

学びの
プロセス例



学習の広がりや深まり
主体的・協働的な学び

多様な授業の展開

思考力・判断力・表現力

学びに
向かう力

- 健康の保持増進のための実践力を育成し、明るく豊かな生活を営む態度を育む。
- 自他の健康に関心をもつ
 - 自他の健康に対する取組のよさを認める
 - 自他の健康の保持増進や回復のために協力して活動する
 - 健康・安全を優先し、健康な社会づくりに参画する

健康に関する考えや必要な提案を効果的な対象に主張する

課題の解決に向けて思考したり判断したりしたことについて、互いの立場を考え伝え合う

健康課題や健康情報などについて考えたり調べたりしたことを仲間と共有する

健康情報や習得した知識・技能を活用して多様な解決方法を考える
 新たな知識・技能を自他の生活に関連付けたり、適用したりする
 多様な解決方法の中から適切な方法を選択・決定し、生活改善に生かす

健康情報を収集、分析する
 適切な健康情報を選択する
 課題の解決を予想する

学習結果を整理し、まとめ、解釈する
 新たな課題を創造する

基本的な 考え方が

- ・特定の型や、方式化された授業の方法や技術ではなく、授業改善の考え方として捉える。
- ・子供の学びへの積極的関与と深い理解を促すような指導や学習環境を設定することにより、子供たちの自信を育み、必要な資質・能力を身に付けていくことができるようにする。
- ・具体的な学習プロセスは限りなく存在し得るものであり、教員一人一人が、子供たちの発達の段階や発達の特異性、子供の学習スタイルの多様性や教育的ニーズと学習内容、単元の構成や学習の場面等に応じた方法について研究を重ね、ふさわしい方法を選択しながら、工夫して実践できるようにすることが重要。

深い 学び

習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた学びの過程の実現

- ・運動やスポーツの楽しさや喜びを見出すとともに、豊かなかわり方について考える。
- ・運動の行い方を理解し、自己の能力に応じた課題を見付ける。
- ・課題の解決に向けて、習得した知識を活用して運動の行い方を工夫し、運動に取り組む。
- ・ICTの活用等により、課題の到達度を確認し、必要な知識を収集するとともに実践する。
- ・自己やチームの能力に応じた運動の楽しみ方を見付ける。
- ・知識と技能を関連付けて学習することにより、その重要性を認識し、理解を深める。

対話的な 学び

他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げる学びの過程の実現

- ・運動についての課題と、その解決方法を仲間と共有する。
- ・課題の解決に向けて、仲間の感情に配慮し、助け合ったり教え合ったりしながら運動に取り組む。
- ・仲間と認め合い、励まし合いながら運動に取り組む、運動の楽しさや喜びを味わう。
- ・言語活動の充実やICTの活用等を通して、仲間の学びを理解するとともに、運動についての自己の課題の解決に生かす。

見通しをもつて粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる学びの過程の実現

- ・運動の楽しさに気付き、自ら進んで運動に取り組む。
- ・自己の目標をもち、目標の達成に向けた課題の解決に向け、意欲的に取り組む。
- ・学習の見通しをもつとともに、自己の課題の解決に向けて粘り強く運動に取り組む。
- ・ICTの活用等により、学習を振り返り、課題の修正をしたり新たな課題を設定したりする。
- ・公正、協力、責任、参画、健康・安全の大切さや意義を理解し、運動の楽しさや喜びを味わう。

主体的な 学び

基本的な 考え方が

- 特定の型や、方式化された授業の方法や技術ではなく、授業改善の考え方として捉える。
- 子供の学びへの積極的関与と深い理解を促すような指導や学習環境を設定することにより、子供たちの自信を育み、必要な資質・能力を身に付けていくことができるようにする。
- 具体的な学習プロセスは限りなく存在し得るものであり、教員一人一人が、子供たちの発達の段階や発達の特徴、子供の学習スタイルの多様性や教育的ニーズと学習内容、単元の構成や学習の場面等に応じた方法について研究を重ね、ふさわしい方法を選択しながら、工夫して実践できるようにすることが重要。

深い 学び

- 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた学びの過程の実現
- 健康に関する身近な生活やそれを取り巻く社会環境の状況から、健康課題に気付く。
 - ICTを活用し、健康に関する情報を収集、批判的に吟味し、健康課題の解決に役立つ情報を選択する。
 - 選択した健康情報や習得した知識や技能を活用して、疾病等のリスクを減らしたり、対処法を選択したりするなど健康課題の解決方法を考える。
 - 健康課題の解決方法を自他の生活と比較したり、関連付けたりし、適切な意思決定・行動選択に役立てる。

対話的な 学び

- 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げる学びの過程の実現
- 健康課題や健康情報を仲間と共有する。
 - 健康課題の解決に向けて、仲間と教え合ったり相談し合ったりしながら多様な解決方法を考える。
 - 健康に関する考えや提案を相手の立場を考えて伝え合う。
 - 健康に関する話し合いを通して、仲間の学びや取組に対するよさを認め、自他の健康の保持増進や回復に生かす。

主体的な 学び

- 見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる学びの過程の実現
- 健康に関心をもち、健康課題の解決に向けて意欲的に取り組む。
 - 学習の見通しをもつとともに、健康の大切さに気付き、健康課題の解決に向けて粘り強く取り組む。
 - 学習を振り返り、獲得された健康に関する知識・技能や考え方などの成果を確認する。

生活・総合的な学習の時間ワーキンググループにおける検討事項

【生活科について】

1. 「生活科」を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・ 育成すべき資質・能力の可視化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）
 - ・ 生活科の内容の構成要素等（学年目標を構成する項目、内容構成の基本的な視点と具体的な視点、内容の構成要素と階層性、学習対象等）と、論点整理で示された育成すべき資質・能力の三つの柱との関係について
 - ・ 中学年以降の各教科等とのつながりについて
 - ・ 低学年における他教科等との関連について
2. 幼児教育との円滑な接続を図るスタートカリキュラムの中核となる教科としての位置付けについて
 - ・ カリキュラム・マネジメントの視点からスタートカリキュラムの在り方について
 - ・ 幼児教育との接続及び、他教科等との連携の在り方について
 - ・ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と生活科において育成する資質・能力との関連性について

【総合的な学習の時間について】

1. 「総合的な学習の時間」を通じて育成すべき資質・能力の明確化について
 - ・ 各教科等の学習を踏まえた上で、総合的な学習の時間を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・ 発達の段階に応じた育成すべき資質・能力について
 - ・ 発達の段階に応じて身に付けるべき学び方やものの考え方の明確化について
2. 教育課程全体における「総合的な学習の時間」の意義について
 - ・ 各教科における学習で身に付けた資質・能力を相互に関連付けた教科横断的な学習を行う時間としての意義
 - ・ 各教科等単独では取り組むことの難しい現代的な課題の学習を行う時間としての意義
 - ・ 高等学校教育において、より探究的な学習活動を重視する視点からの「総合的な学習の時間」の在り方について

特別活動ワーキンググループにおける検討事項

1. 特別活動を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・特別活動を学ぶ本質的な意義や他教科等との関連性について
 - ・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）
 - ・小学校、中学校、高等学校における特別活動で育成すべき資質・能力の系統性について
 - ・特別活動における学級・ホームルーム活動、児童・生徒会活動、クラブ活動、学校行事と、育成すべき資質・能力との関係について
 - ・特別活動で育成すべき資質・能力と、社会の要請（防災や社会参画など）に応じた活動内容との関係について
2. アクティブ・ラーニングの三つの視点（※）を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき特別活動の指導等の改善・充実の在り方について
3. 「社会に開かれた教育課程」を実現していく上での特別活動の意義や役割について
4. スタートカリキュラムなど、学校種間の円滑な移行を図る上での特別活動の意義や役割について
5. 小学校、中学校、高等学校の連続性を踏まえた評価の在り方について
6. 必要な支援（特別支援教育の観点を含む）や条件整備等について

※アクティブ・ラーニングの三つの視点（企画特別部会「論点整理」18ページ参照）

- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

【望ましい集団活動を通じて】小中高共通の育みたい資質・能力を以下の三つと仮定し整理】

- ◇人間関係を形成する力
- 社会に参画する力
- 自己を生かす力

【高等学校】多様な他者と協働し、望ましい集団活動を通して…

- ◇他者の価値観や個性を受け入れ、自己も生かしながら、時・場所・場面に応じた適切なコミュニケーションを図ることができるなど、自主的・実践的によりよい人間関係を築くことができる。
- ホームルーム・学校や地域・社会の問題を把握し、合意形成を図り、自己の果たすべき役割を考え、自主的・実践的に責任ある行動をとることができる。
- 自己の能力や適性、置かれている環境を受け入れて、主体的に日常生活や自己の在り方を改善することができる。
- 多様な情報を収集・整理し、興味・関心、自己の適性の把握などに基づき、将来を見通して主体的に自己の生き方を選択することができる。

【中学校】多様な他者と協働し、望ましい集団活動を通して…

- ◇自己や他者の個性を理解し、自他が安心して生活できるよう積極的にコミュニケーションを図るなど、自主的・実践的によりよい人間関係を築くことができる。
- 学級・学校や地域・社会の問題を見付け、合意形成を図って解決策を決め、自主的・実践的に取り組むことができる。
- 自己のよさや個性、置かれている環境を理解し、それを生かしつつ主体的に日常生活を改善することができる。
- 情報の収集・整理と、興味・関心、自己の適性の把握などにより、将来を見通して暫定的な自己の生き方を主体的に選択することができる。

【小学校】多様な他者と協働し、望ましい集団活動を通して…

- ◇助け合ったり協力し合ったりして、相手を信頼し支え合い、自主的・実践的によりよい人間関係を築くことができる。
- 学級・学校や地域の問題に気づき、解決方法などを話し合って決め、解決のために自己の役割や責任を果たして、自主的・実践的によりよい生活をつくることができる。
- 自己の課題に気付いて生活を改善したり、自己のよさを生かして主体的に活動したりすることができる。

【幼児教育】

- (自立心)
- ・生活の流れを予測したり、周りの状況を感じたりして、自分でしなければならぬことを自覚して行う。
 - ・自分のことは自分で行い、自分でできないことは教職員や友達の助けを借りて、自分で行う。
 - ・いろいろな活動や遊びにおいて自分の力で最後までやり遂げ、満足感や達成感をもつ。
- (協同性)
- ・いろいろな友達と積極的にかかわり、友達の思いや考えなどを感じながら行動する。
 - ・相手に分かるように伝えたり、相手の気持ちを察して自分の思いの出し方を考えたり、我慢したり、我慢しながら一緒に遊びを進めていく。
 - ・クラスの様々な仲間とかかわりを通じて互いのよさをわかり合い、楽しみながら一緒に遊びを進めていく。
 - ・クラスみんなで共通の目的をもって話し合ったり、役割を分担したりして、実現に向けて力を発揮しやり遂げる。

(教育課程部幼児教育委員会において、本ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議)

産業教育ワーキンググループにおける検討事項

1. 職業に関する各教科を通じて育成すべき資質・能力について

- ・ 三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - iii) どのように社会・世界とかがわり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）
- ・ 職業に関する各教科において育成すべき資質・能力と指導内容との関係について
- ・ 職業に関する各教科の科目構成について

2. これまでの実験・実習などの実践的、体験的な学習活動の成果やアクティブ・ラーニングの三つの視点を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき指導等の改善充実の在り方について

(三つの視点)

- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

3. 国家資格や各種検定、研究発表会や競技会等の活用を含めた、資質・能力の育成のために重視すべき評価の在り方について

4. 必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について

※ なお、検討を進めるにあたっては、専門分野ごとに求められる資質・能力を産業界や関係団体等との間で共有化しながら、以下の事項にも留意する。

- ①職業人として求められる専門的な知識及び技術の高度化や、職業の多様化への対応
- ②社会的責任を担う職業人としての規範意識や倫理観等の醸成、豊かな人間性の涵養
- ③地域や産業界との連携・交流を通じた、地域の産業や社会を担う人材の育成

産業教育のイメージ（案）

（高等学校専攻科）

※高等学校若しくはこれに準ずる学校等を卒業した者等に対して、精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的として設置される課程（修業年限1年以上）。

【高等学校】 （産業教育）

- ① 各職業分野で求められる基礎的・基本的な知識や技術や技術を習得させるとともに、各職業の社会的意義や役割を理解させる。
- ② 各職業分野に関わる課題（職業能力の専門性の深化、持続可能な社会の構築、グローバル化・少子高齢化等への対応）に対して、職業人としての倫理観をもって、主体的・協働的に取り組み、合理的かつ創造的に解決する能力を育成する。
- ③ 産業・社会を支える職業人として必要な豊かな人間性、産業の振興や社会に貢献しようとする態度及び社会の変化に対応して学び続ける態度を育成する。

（共通教科）

- 家庭や個人の生活上等の課題の解決に必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等、態度等の育成。
（家庭科、公民科、情報科、保健体育科 等）
- 職業において共通に必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等、態度等の育成。
（全ての教科）

【義務教育】

- 家庭や個人の生活上等の課題の解決に必要な基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等、態度等の育成。
（生活科、理科、社会科、家庭科、技術・家庭科、保健体育科 等）
- 職業において共通に必要な基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等、態度等の育成。
（全ての教科）

多様な評価手法



高等学校基礎学力
テスト（仮称）



全国学力・学習状況調査



	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 教科等の本質に根ざした見方や考え方等 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)
産業教育 全体	<ul style="list-style-type: none"> 各職業分野で求められる基礎的・基本的な知識や技術 各職業の社会的意義や役割の理解 	<ul style="list-style-type: none"> 各職業分野に関わる課題に対して、職業人としての倫理観をもって、主体的・協働的に取り組み、合理的かつ創造的に解決する能力 	<ul style="list-style-type: none"> 産業・社会を支える職業人として必要な豊かな人間性 産業の振興や社会に貢献しようとする態度 社会の変化に対応して学び続ける態度

(*)身に付けた知識・技術の活用や、探究する際の視点の例(教科等の本質に根ざした見方や考え方等)

- 産業・社会の課題について関係する人との対話や、物・事象等の観察により課題を多面的に把握する。
- 地域・企業等との連携を深め、協議やシミュレーション、実験・実習等を行い、より良い解決方法を探究する。
- 関係する法令等を遵守するとともに、職業人として果たすべき役割や責任を踏まえ、解決策を決定する。
- 課題解決の過程においては、科学的原理、経済性、社会資源及び環境への影響等を踏まえ、人々の健康や快適な生活の実現、社会の発展に寄与する生産物や製品、サービスを工夫・創造する。

【参考】教育課程企画特別部会 論点整理(平成27年8月26日)・参考資料(検討中)

